

カトリック河原町教会だより

2016年12月

主イエスの御降誕をともにお祝いしましょう



2016年河原町教会 クリスマス

クリスマスチャリティーコンサート	12月18日 (日)	14:30
クリスマス市民の集い	12月24日 (土)	18:30
主の降誕夜半ミサ	12月24日 (土)	21:00
主の降誕ミサ	12月25日 (日)	7:00・10:30 12:00(英語ミサ)

絵:「受胎告知」フラ・アンジェリコ作(1440年前半/サン・マルコ美術館)

「いつくしみの扉」は閉門されても ~御父のようにいつくしみ深く~

「いつくしみの特別聖年」は、11月20日の「王であるキリスト」の祭日に閉幕します。11月13日10時半から大塚司教とチェ神父の共同司式による「いつくしみの扉」閉門ミサが行われました。司教は、「この特別聖年を通していただいた、神のいつくしみに気づき、しっかりと受け止めましょう。そして、これからの生活の中でも“御父のようにいつくしみ深く”あり、神の愛を力強く生きていきましょう」と語られました。

ミサの中で、前日から西院教会において「教区青年の集い」に参加していた青年たちが、「分かち合い」の中で深めた「気づき」を発表しました。

(写真提供: 京都教区広報委員会)



闇の中

私たちは今、待降節を過ごしている。待降節とは、闇の中を歩む時である。

今日の世界は、闇に包まれている。多くの命が、否定され、無視されている。貧困や飢餓、テロだけではない。人びとをつなぎ、生きる喜びを分かち合うためのインターネットが、命を傷つけ合うための手段となっている。生きるための仕事、人を死に追いやっている。人の命を守るために働いている人たちは、疲れきっている。

そして、私たちは、こうした闇を直視すること、闇の中を歩く自由を奪われている。多くの人が、暗闇の中を歩きながら、スマートフォンを見ている。スマートフォンの光の中で歩いている。実際は、顔しか照らされていないのに。自分のまわりは、暗闇なのに。

さらに、多くの人は、目先のこと、自分のことし



洛東ブロック担当 一場修 神父

か考えられないほど、追いつめられている。毎日の生活が便利になればなるほど、余裕がなくなっている。立ち止まって考えることもできないほど、追い立てられている。時間がかかることが、悪いこととみなされている。

暗闇を歩くために、私たちは目をあげなければならない。暗闇は、ゆっくり歩くところである。考えながら歩くところである。時々立ち止まって、まわりで何が起きているか確かめながら歩くところである。

この待降節、闇の中をしっかりと歩んでいきたい。私たちの光であるキリストは、闇の中で輝く。この光は、私たちの顔だけでなく、すべてを照らす。すべての命を照らす。キリストという光に包まれるようになるために、今与えられている闇の中をしっかりと歩んでいきたい。ゆっくり、時間をかけて歩んでいきたい。